

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成26年7月17日(2014.7.17)

【公表番号】特表2013-532964(P2013-532964A)

【公表日】平成25年8月22日(2013.8.22)

【年通号数】公開・登録公報2013-045

【出願番号】特願2013-513303(P2013-513303)

【国際特許分類】

C 12 P 7/64 (2006.01)

C 11 B 1/00 (2006.01)

C 11 B 3/16 (2006.01)

【F I】

C 12 P 7/64

C 11 B 1/00

C 11 B 3/16

【手続補正書】

【提出日】平成26年6月2日(2014.6.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

細胞組成物から脂質を得る方法であって、

(a) 前記細胞組成物の細胞を溶解して溶解細胞組成物を形成するステップと、

(b) 前記溶解細胞組成物を解乳化して解乳化細胞組成物を形成するステップと、

(c) 前記解乳化細胞組成物から前記脂質を分離するステップと、

(d) 前記脂質を回収するステップと、

を含み、(b)が前記溶解細胞組成物を少なくとも70の温度で加熱することを含む、方法。

【請求項2】

(b)が前記溶解細胞組成物を70～100の温度で加熱することを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

(b)が前記溶解細胞組成物を塩と接触させることをさらに含む、請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

(b)が前記溶解細胞組成物を第1の塩基と接触させて、前記溶解細胞組成物のpHを8以上に上昇させることをさらに含む、請求項1～3のいずれか一項に記載の方法。

【請求項5】

(b)が前記溶解細胞組成物を攪拌することをさらに含む、請求項1～4のいずれか一項に記載の方法。

【請求項6】

(a)が前記細胞組成物に塩を添加することをさらに含む、請求項1～5のいずれか一項に記載の方法。

【請求項7】

(a)が前記細胞組成物のpHを8以上に上昇させることを含む、請求項1～5のいず

れか一項に記載の方法。

【請求項 8】

(b) が前記溶解細胞組成物を第2の塩基と接触させて、前記溶解細胞組成物のpHを7以上に上昇させることをさらに含む、請求項4～7のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 9】

前記溶解細胞組成物が、連続水相と分散脂質相との混合物を含む水中油乳濁液の形態である、請求項1～8のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 10】

(c) が前記解乳化細胞組成物を遠心することを含む、請求項1～9のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 11】

前記脂質が粗脂質である、請求項1～10のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 12】

(e) 前記粗脂質を精製して精製油を得るステップをさらに含む、請求項1～11に記載の方法。

【請求項 13】

前記脂質が26以下のアニシジン価を有する、請求項1～12のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 14】

前記脂質が5以下の過酸化物価を有する、請求項1～13のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 15】

前記細胞が微生物細胞である、請求項1～14のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 16】

前記微生物細胞が、トラウストキトリウム属(*Thraustochytrium*)、シゾキトリウム属(*Schizochytrium*)、またはそれらの混合物である、請求項1～5に記載の方法。

【請求項 17】

前記脂質が-3および/または-6多価不飽和脂肪酸を含む、請求項1～16のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 18】

前記脂質が、DHA、DPA(*n*-3)、DPA(*n*-6)、EPA、および/またはアラキドン酸(ARA)を含む、請求項1～16のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 19】

前記塩が前記溶解細胞組成物の0.1重量%～20重量%の量で添加される、請求項3～18のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 20】

前記塩が、アルカリ金属塩、アルカリ土類金属塩、硫酸塩、およびそれらの組み合わせから選択される、請求項3～19のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 21】

前記脂質を前記細胞から抽出するのに十分な量または濃度の有機溶媒が、前記細胞組成物、前記溶解細胞組成物または前記脂質に添加されない、請求項1～20のいずれか一項に記載の方法。